

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年5月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490200734		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家祇園山本		
所在地	広島市安佐南区山本4丁目12-56-3 (電話) 082-832-3221		
自己評価作成日	平成30年4月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200734-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成30年5月11日(金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

お食事は毎日一緒に調理し、盛り付けもして頂いています。食べたい物がある際はメニューの変更も一緒に考えています。体を動かすという生活リハビリテーションも生活の中に取り入れています。これが、個人の潜在している能力を生かし出来る喜びや、達成感のある日常生活に繋がると考えています。毎月様々な季節のイベントを開催しています。地域との交流など積極的に関わり、社会と繋がっていることを実感して頂けるような交流イベントも用意しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家祇園山本は、毎月のミーティングで職員の気付きや生活記録、業務日誌の情報を基に話し合い、経営理念や施設理念・ユニット目標にそって実践し、利用者がその人らしく過ごし利用者一人ひとりの人格を尊重され、プライバシーに配慮した言葉かけや態度で接する事を、ミーティングや申し送り時に管理者を中心にして全職員で意識付けをし、本人の思いや意見を受けとめ、支えあう関係作りに努めている。健康管理、医療、安全面においても、きめ細かなチェックが行われ、事故防止や事故再発防止に繋がっている。明るい笑顔が見られるよう日々のケアにあたっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食事を楽しんでいる。季節の行事食やおやつ作り、出前(お好み焼き) 寿司の日・肉の日等食べる事の楽しみを工夫し、食事が楽しみなものになるように支援している。

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時(H26年2月)に作成したものを見直しする。職員全員の意見を聴き新しい理念を作成したので共有できている。ユニットごとのフロー目標を作り、実践できるように貼り出しています。	経営理念・施設理念・ユニット目標を事務所・リビングに掲示し、毎日申し送り時に唱和している。職員はスタッフ会議で理念を基にケアの検討をして、利用者の生活歴や趣味を基に生きがい作りに取り組んでいる等、理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	社協のイベントに参加している。いきいきサロンの開催をされており認知症予防体操や嚥下機能向上の体操の紹介の支援をしている。夏まつりのイベントの協力もしている26年9月に開催できた。本年度も開催予定である。	自治会に加入し、地域の行事(近隣の施設との合同で福祉祭りの開催・幼稚園の運動会の参観・近隣の集会所で行われるいきいきサロン)等に参加している。毎日の散歩や買い物の際に地域住民と挨拶を交わし、他事業所への訪問等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	集会所でのいきいきサロンに参加させて頂き、認知症予防体操や嚥下機能向上体操の紹介をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括、社協、民生委員、家族様の参加頂きご意見・ご意向を頂き、参考にさせて頂いております。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。会議には地域包括支援センター職員・民生委員・社会福祉協議会・利用者・家族・ヤクルト社員・管理者・計画作成担当者・看護師が参加し、利用者の状況やインシデント、アクシデント報告、研修報告、外部評価結果と事業所の取組み、避難訓練等について話し合っている。会議で出た意見は、検討しサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	27年3月、27年9月に実地指導をうけ、サービス提供についてや、運営についての指導・助言をうける。	市担当者とは、毎月利用状況を報告し、更新時には直接出向く等したり、電話で相談して助言を得て、情報交換している。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や出向いて、利用者の状況について相談している等、関係を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の年間教育計画に基づき研修を実地している。「身体拘束その他の行動制限防止に係る指針」を開示し身体拘束をしない取組をしている。	法人での研修を年間計画に取り入れ実施している。マニュアルがあり、日常業務の中で管理者が指導し、職員は身体拘束について理解している。見守りでリスクを回避し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員間で注意し合ったり、話し合い、身体拘束についても、見守りやラウンド回数を増やす事で、危険性を回避出来るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の年間教育計画に基づき研修を実地している。定期的なカンファレンスで個人の特徴やケアの方法等を共有し虐待防止に努めている。		

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の年間教育計画に基づき研修を実地している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に重要事項説明書に基づき説明し契約している。改定等で料金体系の変更があった場合は改定の説明し同意書を書面にて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人が年1回「顧客満足度調査アンケート」を実地しており、改善点は改善を行い実施している。	運営推進会議時や電話、面会時に家族からの意見や要望を聞いている。施設での様子を手紙で知らせ、御意見や要望を聞いている。家族からの意見や要望は申し送りノート等で共有している。法人が行う年1回の「顧客満足度調査アンケート」で意見を頂き検討しそれらを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人が年1回「従業員満足度調査アンケート」を実地して、従業員の意見・提案を聴いている。業務改善提案書も常時募っており改善に努めている。	法人が年1回行う「従業員満足度調査アンケート」で従業員の意見、提案を集め処遇改善に繋げている。普段から、業務の間や月1回のカンファレンス時やユニット会議・合同会議等で意見・提案している。それらを検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・法人独自の「誰のび人事制度」で絶対評価をし給与に反映している。 ・キャリア段位制度による個々のスキルアップを評価し向上心アップを図っている。 ・事業所単位での営業損益による業績一時金制度となっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・本社の年間教育計画に基づき(300種類の研修)、管理者(新任・現任)、CM(1/2か月) ・介護職員は入社時研修入社、その後3ヶ月、6ヶ月、1年、3年後のフォローアップ研修が実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム交流会に参加できるようにしています。法人内のGH会議やエリア会議などで、情報交換や意見交換をし、サービスの質の向上につとめている		

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居決定時に管理者・CM・看護師・ユニットリーダーの内複数で面談を実地する。見学や問い合わせ段階のご家族にも理解して頂きやすいように丁寧に施設概要やサービス内容を説明する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居当日は面談に立ち会った職員が出迎える。入居生活の初めは混乱されていることが多いので、全スタッフがご本人の情報を共有し関係を構築していくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	GH入居後、他施設への転居希望される方への支援を行っています。ドクター指示により重度認知症ケア通われる方もおられます。 GH→特別養護老人ホーム GH→有料老人ホーム		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様に出来る事を役割としてもって頂き、共同生活者の一員として頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時も居室でひとりが過ごせるようお茶やお菓子をだしたりし配慮しています。行事やレクリエーション開催の案内を定期的にお知らせし参加頂けるよう配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の面会も受け付けている。 以前通院していた病院受診するなどしている。	家族の協力を得て外食、墓参りへ出かけている。馴染みの美容院へ行く、自宅に帰る等、一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションを通じ一緒に作業してもらおうなどの支援をしている。コミュニケーションが取りにくい方は職員があいだに入り関わりを持って頂くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院中、容態が悪くなりなくなられた方の通夜、葬儀と職員数名で参列させていただく。入院中もご家族の声にのみを傾け対応する。		

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな事、喜んで頂ける事を見つけられるように努めている。些細な希望を聴いたり、選択して頂いたりしている。	日々の生活の中で、気付いた事や言動をアセスメント表・介護記録に記録し共有し会議で検討している。困難な場合にはご家族に協力を得たり職員間で話し合い本人本位に検討している。毎月食事会を行っていて、利用者が希望する食事所へ行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にアセスメントはするが、入居後もご家族からお話を聴いたり、ご本人からお話を聴いたりして、情報を増やしていくように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の心身の状況に合わせ1日の過ごし方を本人、家族の意向も踏まえ考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月初には家族様へのお手紙を書き介護計画書のモニタリング形式にて報告しています。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回カンファレンスを開催して話し合い、サービス担当者会議で主治医の意見を参考にしたり、モニタリングを毎月実施し本人や家族の意向を反映した介護計画を6ヶ月に1回作成している。又、利用者の状態の変化に合わせて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	きめ細やかな申し送り、記録の取り方など会議で話合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人家族の要望に耳を傾けるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人様の希望される事に沿うように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全員施設が提携している小島クリニックをかかりつけ医に変更されています。施設の提携医と言うことで納得、信頼をして頂いています。	入居される際に、本人・家族の方が希望される、かかりつけ医で引き続き受診出来るようにしているが、全員協力医に月2回の訪問診療や必要に応じた検診、往診を受けている(訪問歯科を含む)。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は家族や医療機関に情報を提供し、電話や文書、面会時に口頭で家族に伝え、職員間や家族で情報を共有し適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	非常勤勤務の看護師配置が出来ております。日々情報交換や共有が出来ている。看護師は施設近隣に在住の為、緊急時の対応も沿って頂け適切に医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会、お見舞いに行っている。病状の確認や環境の変化に戸惑っていないかなど確認している。施設内でのケアの成功例や本人の特徴などを病院にお伝えし、出来るだけ戸惑いや不安が少なくなるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約の重要事項説明書で重度化指針を説明しています。入居時ですので、イメージが出来ないご家族も多いですが事業所の体制や終末期看取り介護の対象の話をしております。	入居時に、重度化した場合や終末期に事業所で出来る対応について重要事項説明書の中の「重度化対応・終末期ケア対応にかかる指針」に基づいて家族に説明している。実際に重度化した場合は、医療機関や他施設への移設も含めて、主治医と看護師・家族、職員が相談して再度指針を確認し、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。かかりつけ医は24時間対応で看護師も支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設の防火管理者を中心に災害時の避難訓練を年2回実施している。緊急時の対応の法人の年間教育計画の中に位置づけられており、伝達研修により全員に周知している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実地している。内1回は消防署立ち合いのもと実地し、昼間想定と夜間想定の実地をしている。地域の方やご家族様にも参加して頂けるように運営推進会議の後に実施しあわせてもしもの時のご協力の依頼もしている。	年2回、消防署の協力を得て、実施し内1回は消防署指導の下で昼夜を想定して、消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施している。年1回は運営推進会議時に合わせて、消防署・地域の方・家族・利用者も参加し研修(消火器の使い方)も実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内GHで毎年認知症ケア研究会を企画しており、毎年テーマを決めて研究実践振り返りを行っています。昨年度は「BPSDの激しい方を考える」でした。本年度は虐待についてです	利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、一人ひとりの生活歴や価値観を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いに十分配慮し不快にならないような声掛け言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者の些細な希望、リクエスト、表現されたことは実現している。食事のリクエスト「肉が食べたい」「パンがいい」「お好み焼き」「すき焼き」「晩酌」「タバコが吸いたい」等、職員が聴いた叶えられる事は実現するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な生活リズムは確保しているが、本人の体調や気分、機嫌、希望に配慮しながら、その方らしい無理のない生活を支援している。		

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の選択や、朝の身支度は本人の意向を伺いながら支援している。化粧をされる方にはそれが出来るよう順番に並べたり、準備の支援をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの好みを取り入れ、「肉が食べたい」「パンがいい」「お好み焼き」「すき焼き」の好みをいれている。調理も段階に応じて出来る部分はご利用と一緒にしている。食材の皮むきや盛り付けや下膳や洗浄、食器拭きなど分担してご利用と職員でやっている。	食料業者が作成した献立を職員が交代で調理している。トロミ食、キザミ食等利用者の状況に合わせて食形態を工夫している。時には出前でお好み焼きを頼んだり、寿司の日や肉の日を設けて利用者は食事を楽しませている。職員は利用者を見守ったり介助しながら一緒に同じ食事をしている。利用者はじゃが芋の皮むき・米研ぎ・テーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、お盆拭き等出来る事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	基本は食料業者の管理栄養士作成の献立です。食事摂取量・水分摂取量を記録し食事量や水分量が確保できるようにしています。一人一人の嚥下能力、咀嚼能力に応じた食事形態で提供している。咀嚼・嚥下能力に関してはごこちデンタルクリニックの指導・相談をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアをしている。口腔ケアできない時はうがいだけでもして頂けるよう支援している。週1回ごこちデンタルクリニックによる口腔ケア歯科治療を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意・便意がある方、トイレでの排泄行為が可能な方は出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。尿意・便意があやふやであっても排泄パターンやご本人の様子観察し出来る限りトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用し、個人個人の排泄パターンを把握し、その人に合った時間にトイレ誘導をしている。なるべく自立に向けた支援に繋げるように、定期的にスタッフ間で使用しているパットの減る量等も報告し合えるようにしている。上手く排泄できない方にはその原因を探り、個々のケースに合わせた声掛けのアプローチを行っている。声のかけ方も介助の方法もさり気なく羞恥心や不安を感じないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防の為、水分摂取量の確保をする。ヤクルト、飲むヨーグルト等を毎日飲んでいる。毎日のラジオ体操、リハビリ体操など日替わりで行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日で入浴順を一応きめてはいるが、ご本人のタイミングや体調を考慮して変動的になっている。週2回は入って頂ける様チェック表を作成しています。日曜日は予定はなく予備日として、入浴できなかった方、希望される方に入ってもらっています。	利用者の希望やタイミングに合わせて、週2~3回は入浴できるよう支援している。職員との会話を楽しみながらゆっくり入浴できるように配慮している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、部分浴の支援をしている。入浴したくない人には言葉かけを工夫したり、職員を交代する、時間をずらす等して、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個室にて介護ベットを設置。昼夜逆転にならないように注意しながら日中も自由に臥床されています。気持ち良く眠れるように環境整備をしたり、日中活動的に過ごして頂き良眠して頂けるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局による居宅療養管理指導を受けている。年間教育計画に薬についての研修も位置づけられている。薬の説明書や申し送りノートなどで目的や副作用、用法用量について確認している。本年度は運営推進会議において薬の説明飲み方等の指導をして頂いた。			

グループホームたのしい家祇園山本

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	協同生活の中の役割(調理・掃除・洗濯)を持って頂いたり、季節行事やレクリエーションで生活の中の楽しみや彩を感じて頂き気分転換をしながら生活をして頂ける様支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常は施設回りや近隣の散歩を支援しています。定期的には買い物に行ったりしています。近隣のスーパー・福田・エル・マックスバリューに行く車でイオンに出かけることもある。ご本人の希望の時もあり、施設の買い物をご利用者と一緒に行く事もあります。	天気の良い日は、利用者の意向、体調、体力に合わせて近隣の散歩やスーパー・コンビニ・ショッピングセンター等への買い物、庭での外気浴をする等、なるべく屋外に出るようにしている。又、花見に春日野台に行ったり、初詣・ドリミネーション等に出かけている。	外出する機会を増やす事を考えておられ、今後本人の希望する場所へ外出支援する等の個人対応の外出の機会を増やされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用者様のお小遣いをお預かりしています。金庫保管となっておりますが、ご本人には、お伝えし買い物を希望される方にはそこから出金して買い物をさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます、ご自身で管理できる方は管理されていますが、出来ない方は事務所で充電し保管しています事務所に来られ自由に電話をかけられています。施設電話も子機がありますので、ご家族の電話も取り次いでいます。かけたい希望のある方にもかけて頂きます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感にこころ良い刺激を・・・と考えています。アロマをたいていい香を季節の花を活けたり、庭で育てたり、壁の装飾を季節感のあるものに定期的にご利用者と造り飾る事をしたりしています。空間づくりはご利用者と職員が協力して楽しみながら行えています。	リビングは窓からの光で明るく、広々としている。生花や観葉植物を飾り、季節を感じる事が出来ている。木の質感を楽しめる木製のテーブルや安全に配慮した椅子、ソファを配置し、くつろぎながら食事や会話、レクリエーション、テレビ鑑賞等が出来ている。壁には季節にちなんだ折紙・貼り絵作品や利用者の書道作品等を飾っている。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの窓際にソファを置き自由に座って頂ける様にしている。ユニットの間に事務所がありそこにも自由に行き来しているし、隣のユニットへも自由に行き来している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベットは介護ベット、カーテンは防災用の使用になりますが、それ以外は使い慣れたもの馴染のある物を持って来て頂ける様ご家族にお願いしております。家族の写真や趣味の物をお持ちいただいています。	利用者は居室にテーブルやイス・テレビ・タンス・衣装ケース・加湿器・仏壇・化粧箱・時計・カレンダー・家族の写真・ぬいぐるみ・刺繍で作った絵・誕生日の色紙等利用者が使い慣れた家具や道具、大切にしている物等を持ち込み、安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分で出来る事は出来る限りご自分でして頂いております。入浴の準備さえすれば一人で入浴できる方は一人入浴して頂いております。食事介助も最後まで自力摂取出来なくて途中までなら食べられる方は途中までは自力摂取して頂きます。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安な事、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームたのしい家祇園山本

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたのしい家祇園山本

作成日 平成 30 年 5 月 12 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	誤嚥防止	食べる姿勢、口腔体操で正しく食べる	季節に応じた歌の提供、嚥下体操の強化	1年
2	25	レクリエーションの強化	日々のレクリエーションで脳に刺激を与える。	趣味などを活かし脳を活性化させる。	1年
3	49	外出、買い物に行く機会が少ない。	外出の計画をたてる	利用者様に行きたい所を聴き一緒に考える。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。